



谷原小学校と十和小学校の 統合に係る説明会

2021年10月

つくばみらい市教育委員会

1. 学校の基本的な考え方（文部科学省より）

○学校の目的

学校は、子どもたちが社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、生涯にわたって生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができる力を養う。

○学校の基本的考え方

学校は、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決力などを育み、社会性や規範意識を身につける場所。

そうした教育を十分行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員の集団が配置されていることが望ましい。

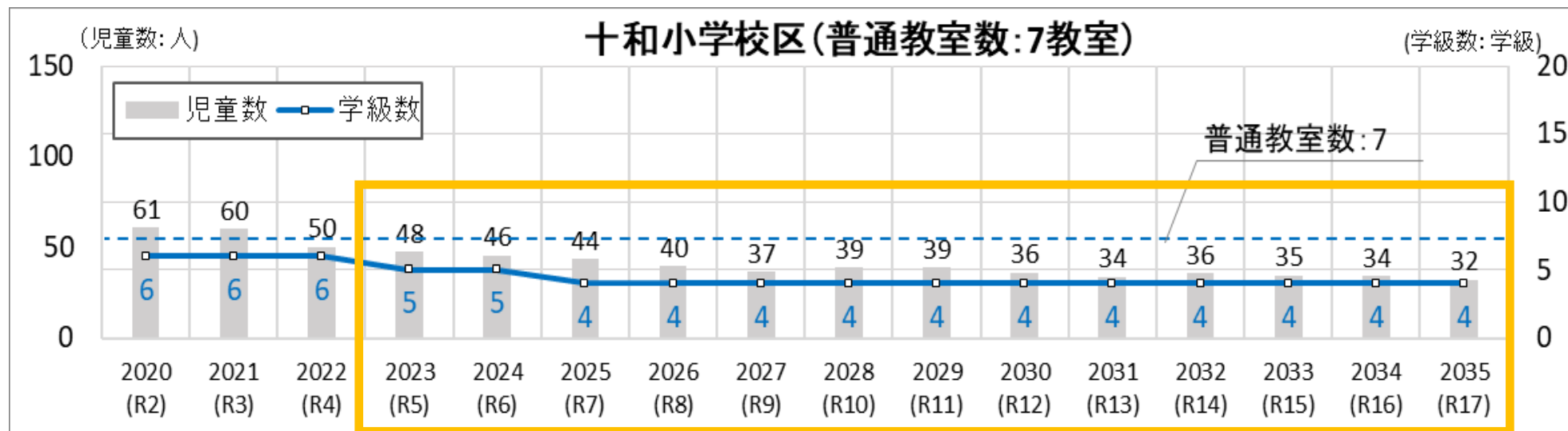
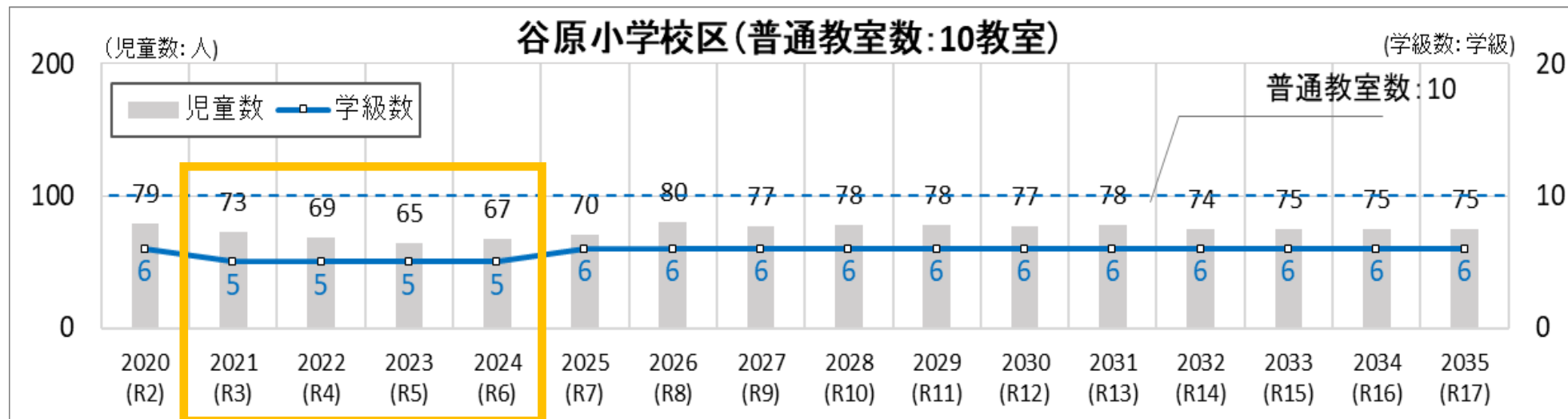
2. 学級編成基準（茨城県）

○学級編制基準（2025年までに段階的に、全学年35人以下の学級となる予定）

区 分	学 年	一学級の児童数
単式学級	1～2年生	35人以下
	3～6年生 （一学年の児童数が80人以下）	40人以下
	3～6年生 （一学年の児童数が81人以上）※	35人程度以下
複式学級 （連続する2の学年で 編成する学級）	1～2年生	二学年で8人以下
	2～6年生	二学年で16人以下

※学級編成の弾力化

3. 谷原小と十和小の児童数と学級数の推計



4. なぜ統合が必要になっているのか

(1) 5年前・10年前との比較



2校とも減少が進行しており、谷原小学校では、10年で半分以下の児童数になってしまっています。また、15年前は、十和小学校でも100人を超えていました。近年、谷原小学校から富士見ヶ丘小学校への指定校変更希望が増加しています。

(2) 複式学級が現れ始めている

想定していたよりも、早いペースで複式学級が生じる事態になっています。現在、谷原小学校では複式学級が生じていますが、推計上は、谷原小学校には複式学級の発生する見込みはなく、令和5年度から十和小学校で初めて複式学級が発生する予測が出ていました。

(3) 小規模校（複式学級含む）のメリット

- 校長や教頭のリーダーシップが発揮されやすく、統率を取りやすい。
- 各教師が個性を発揮しやすい。 ○全教職員が全児童と触れ合うことができる。
- 学校と地域が、一体となった教育がしやすい。
- 児童の個々に応じた指導がしやすい。
- 学校や教職員、大人への信頼・尊敬する意識が高い。

小規模校では、上記のような傾向が見られます。

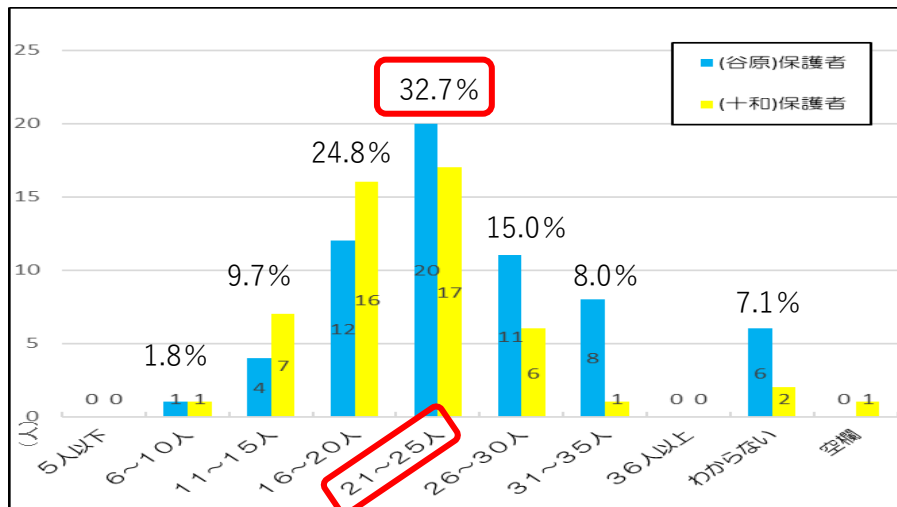
(4) しかし、複式学級には教育上の課題が強く現れる

- 授業で多様な発言が引き出しにくく、授業の展開に制約
- 教育活動の幅が狭い ○男女比の偏り ○人間関係の固定化
- 教員配置が少ない ○習熟度別指導など多様な指導方法の制限 など

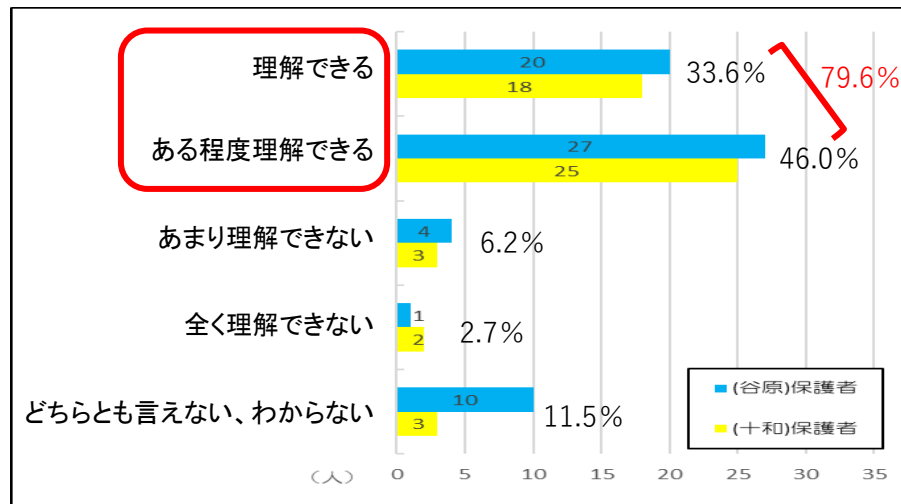
これらの教育上の課題が、複式学級では顕著に現れます。

5. 保護者アンケート結果（令和3年2月実施）

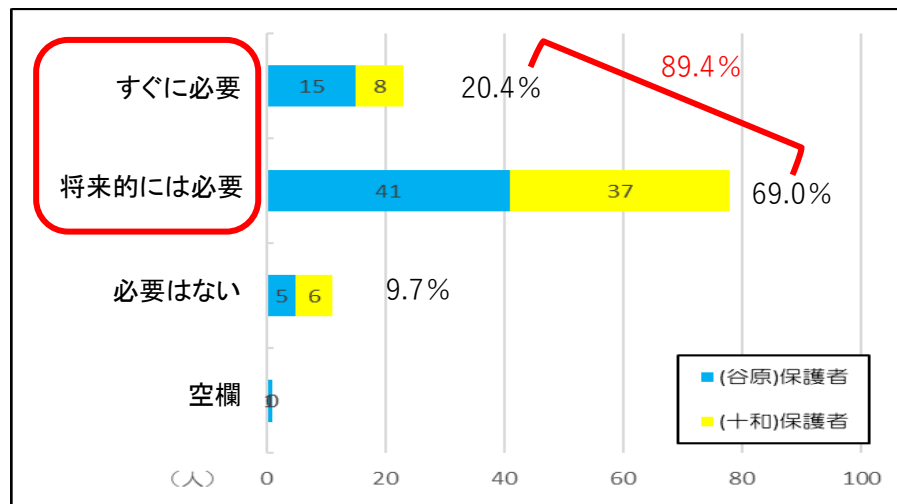
子ども達の教育環境として、最もふさわしいと思う1学級の児童数は何人ですか？



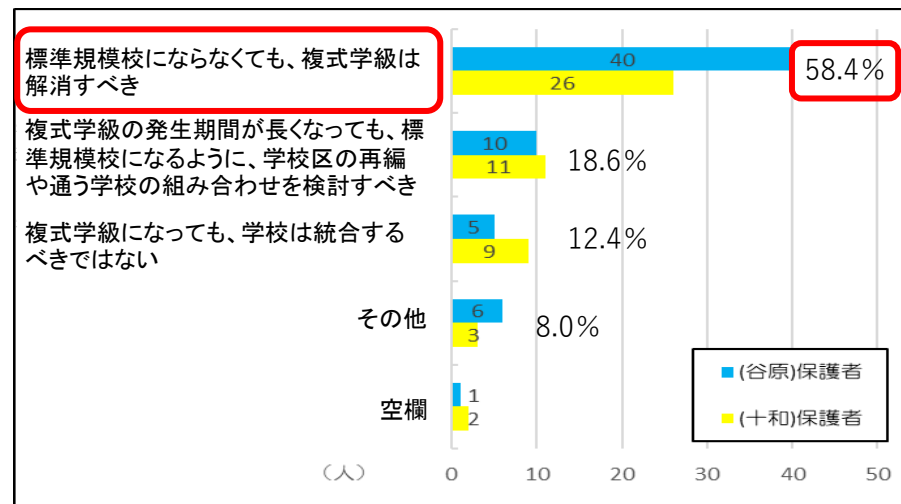
一定規模の児童数を確保するために、学校の統合をすることについてどのように思いますか？



お子様の学校の統合は必要だと思いますか？



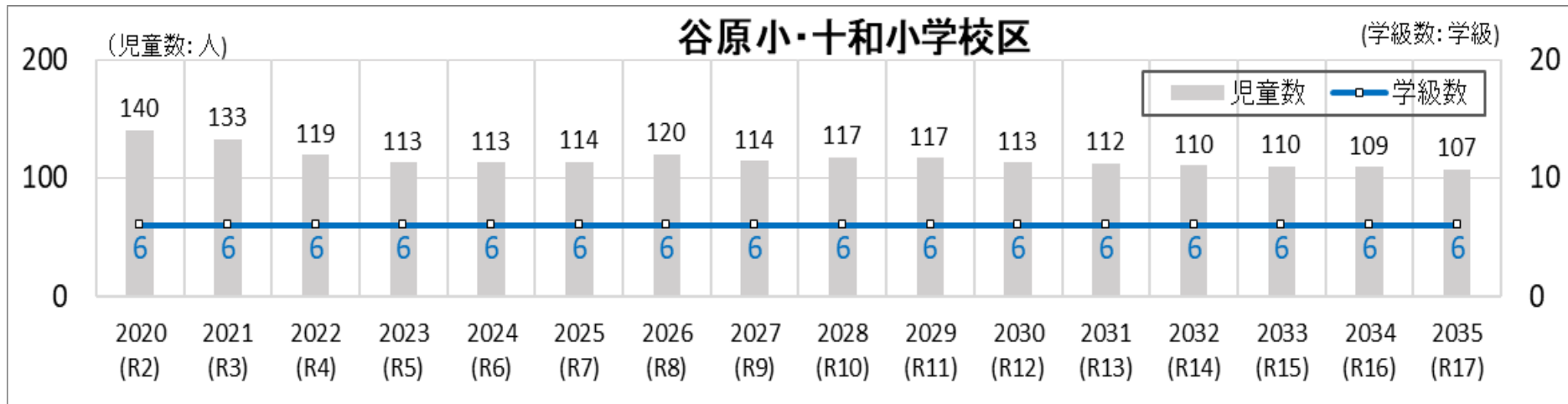
谷原小と十和小が統合しても、標準規模にはなりません、2校の統合について、どう考えますか？



6. 谷原小学校と十和小学校が統合した場合

	谷原小学校（現在）	十和小学校（現在）	2校併せると
1 学年	15 人	7 人	22 人
2 学年	15 人 (7 人)	10 人	17 人
3 学年	15 人 (8 人)	11 人	19 人
4 学年	13 人	10 人	23 人
5 学年	19 人	6 人	25 人
6 学年	11 人	14 人	25 人
合 計	73 人	58 人	131 人

複式学級解消



7. 統合を実施する上での配慮

(1) 通学環境が変わることに関する配慮

① 遠距離通学におけるスクールバス等による通学支援

通学支援(※)に関する距離基準(小学校:2.5km)を前提に、スクールバスや通学費補助等による通学支援に取り組みます。

※市遠距離通学費補助金交付要綱

※市スクールバス運行に関する要綱

② 通学路の安全対策

新たな通学路を確認し、徒歩通学の危険箇所解消と対策に向けた協議を関係機関と実施していきます。

(2) 学習環境の変化に関する配慮

① 事前交流事業の実施

スムーズに仲良く、切磋琢磨しながら学習や学校行事等が行えるよう、統合する通う前から、児童の交流の機会を増やしていきます。

② 学校生活における不安への対応(心的ケア)

統合前後の児童の心理的負担を最小限にします。統合後の学校では、両校の児童の状況を把握している教員が配属されるよう要望を行います。

8. 統合準備委員会について（検討組織）

（1）統合準備委員会の設置

学校を統合するまでには、様々な検討事項があります。学校名をはじめ、通学体制、学校運営や、PTA組織運営などの検討事項について、委員会を組織し、検討していきます。

（2）組織体制について

統合準備委員会

総務部会

検討事項

- ・学校名
- ・通学体制
- ・体操服／運動靴／名札
- ・統合に伴うイベントの実施
- ・統合校の歴史／伝統の保存
- ・その他

構成及び人数

- ・教職員
 - ・PTA本部関係者
 - ・地域保護者
 - ・地域住民
- 10名程度

学校運営部会

検討事項

- ・児童の交流事業
- ・教育課程
- ・学校運営体制
- ・学校行事
- ・校訓／校則
- ・備品／保存文書等の整理
- ・その他学校運営に必要な事項

構成及び人数

- ・教職員
- 4-6名程度

PTA部会

検討事項

- ・PTA組織編制
- ・役員選出
- ・運営計画
- ・予算
- ・規約・慶弔規定
- ・PTAの交流事業
- ・その他PTAに関する必要な事項

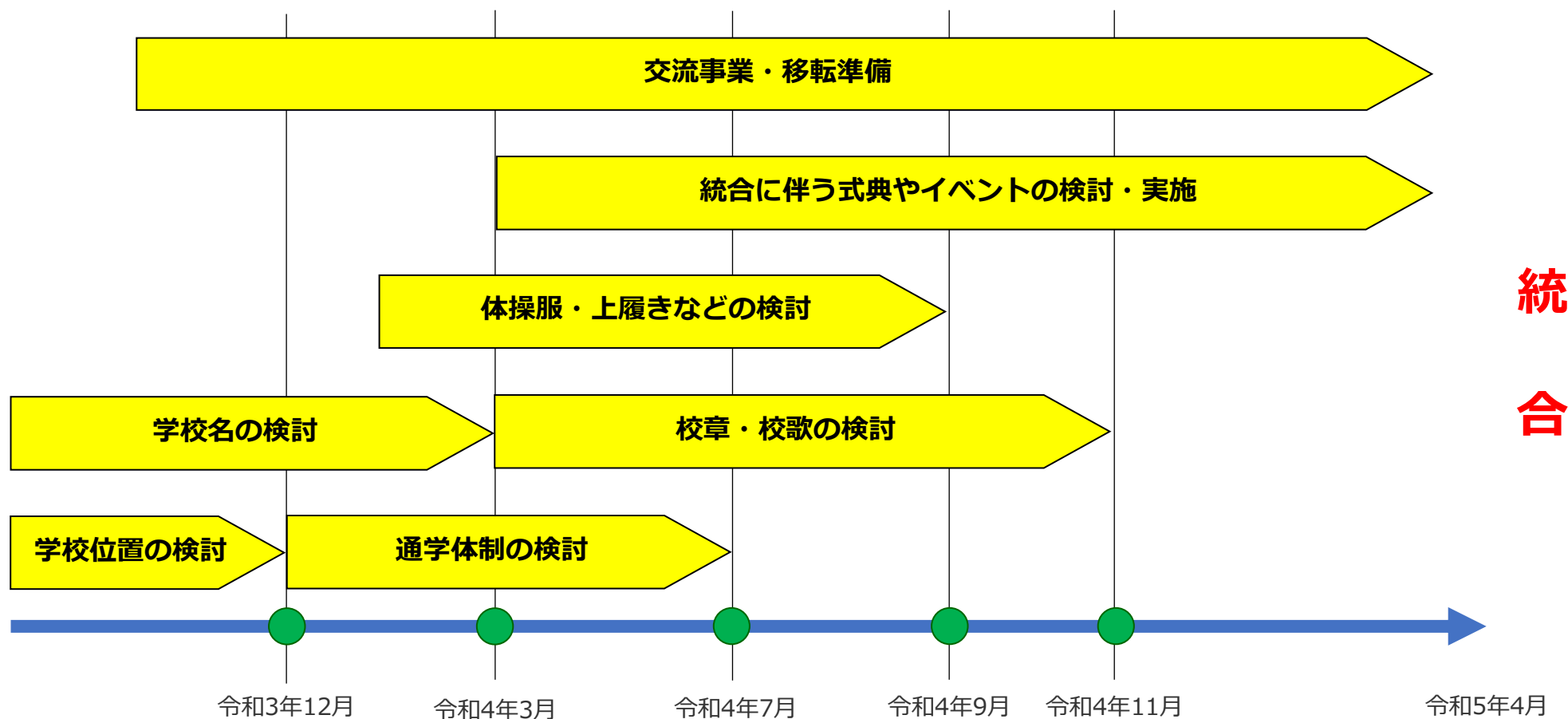
構成及び人数

- ・教職員
 - ・PTA本部関係者
- 4-6名程度

9. 統合のスケジュールについて（概要）

複式学級の解消に向けて

“令和5年4月統合”を目途に、次のような予定で進めていきます。



10. 統合に関して寄せられたご意見について

何よりも子どもたちのために. . .

保護者や地域の方々から、さまざまなご意見をいただいています。

- 今回の統合をきっかけに、“統合校ではない近くの学校”に通わせることはできますか？ その意向調査は行われますか？
- 空き校舎となる学校の跡地利用についての検討はされていますか？
- 現在、人家も少ない道で長い距離を通学しています。スクールバスの検討を早急に進めてください。
- スクールバスは、制限なく希望者全員が利用できるようにしてください。
- 少人数の学校の良さはもちろんありますが、子どもたちにとって狭い世界となってしまうことは、教育環境として改善の必要があると思います。
- 統合に関して様々な思いの方がいると思いますが、“何よりも子どもたちにとって必要な選択”を遅滞なく実行してください。
- 以前の計画で、谷和原地区の統合の組合せでは、谷原、十和、福岡の3校だったと思いますが、今回は、なぜ2校の統合になったのですか。

1 1. 市全体の適正配置について

(1) 標準規模校について

小学校の標準規模校とは、各学年において、クラス替えが可能となる1学年2学級以上（4学級以下）の学級数を有する学校を指します。

(2) 全体計画について

教育委員会としては、将来的に、標準規模校とすることが適正であると考えており、今回の統合後も、引き続き、『市全体の適正配置の計画』において、検討を進めてまいります。

つくばみらい市教育委員会

学校総務課 適正配置推進室

〒300-2395 つくばみらい市福田195番地

☎ 0297-58-2111 (内線7104・7105)

今回の説明に関するご意見・ご質問は、
下記QRコードからも受け付けております。

受付期間：令和3年10月19日（火）～令和3年10月31日（日）

